

東京富士美術館

2014.1.12(日)-3.30(日)



魅せられチャイナ!?

— 開館30周年記念・東京富士美術館所蔵 —

中国陶磁名品展

休館日：月曜休館（祝日の場合は開館。翌日火曜日が振替休館） 開館時間：10:00～17:00（16:30受付終了） 会場：東京富士美術館：本館・企画展示室1～4
主催：東京富士美術館 入場料金：大人800(700)円、大高生500(400)円、中小生200(100)円



TOJI 中国陶磁名品展

中国4500年の歴史を、

陶磁器のデザインと色彩で感じてみよう。

世界四大文明の一つ、黄河文明の発祥の地である中国では、約1万年前に「やきもの」が誕生し、中国陶磁は優れた造形美と高い技術によって、世界の陶磁器をリードしてきました。

東京富士美術館の中国陶磁は、新石器時代から清時代にいたる4500年の中国陶磁史が俯瞰できる作品群で構成されていますが、本展では、各時代の主要な作品の中から厳選した、重要美術品2点を含む125点の名品を公開します。

本展は当館所蔵の中国陶磁器の白眉をまとめて紹介する館外初の展覧会として当館が企画協力し、2012年9月に日本六古窯の一つである丹波の地に立地する兵庫陶芸美術館で開催された「日中国交正常化40周年記念 東京富士美術館所蔵中国陶磁名品展」がご好評をいただき、その里帰り展として開催するものです。この展覧会を通して多くの方々が中国陶磁への関心と理解を深められ、その作品を生み出した豊潤な美の精神にふれていただくことを念願してやみません。

中国陶磁名品展ギャラリートーク

《中国陶磁名品展》を当館の担当学芸員が楽しくわかりやすくご案内いたします。

開催日：1/18(土)、2/15(土)、3/15(土)

※各日14:00より約1時間。申込不要。無料
(ただし展覧会の入場料金が必要、土曜は中小生無料)

春休みワークショップ

開催日時：3/23(日)10:30～14:00～
(各回1時間半程度)

※詳細は後日HPにてお知らせ致します。

[アートライブラリー] オープンのお知らせ

当館がこれまでに刊行した特別展図録、収蔵品・名品図録、研究誌等に加え、主な美術雑誌・逐次刊行物や美術全集を閲覧いただけます。タッチパネル式のPCで所蔵作品情報をはじめアート情報にアクセスできる「ART NAVI」を設置、米国の学術雑誌アーカイブ「JSTOR」では英語の学術雑誌を創刊号から全文検索閲覧利用可能です。

当館学芸員によるギャラリートーク

常設展示《ルネサンスから現代まで》と《アンディ・ウォーホル展》を、楽しくわかりやすくご案内いたします。

開催日：1/25(土)、2/1(土)・8(土)・22(土)、
3/1(土)・8(土)・22(土)・29(土)

※各日14:00より約1時間。申込不要。無料(ただし展覧会の入場料金が必要、土曜は中小生無料)

同時開催

東京富士美術館所蔵 アンディ・ウォーホル展

1950年代末より60年代にかけて広告などの大衆文化を作品として展開したポップ・アート。そのスター的な存在であったアンディ・ウォーホル(1928-87)の代表作《マリリン・モンロー》、《キャンベル・スープ缶》をはじめ、周辺作家の作品を紹介します。常設展示の20世紀美術とあわせてお楽しみください。
会期：2014年1月9日(木)～3月30日(日) 会場：新館・常設展示室7～8



交通案内

【バス】

- JR八王子駅北口・西東京バス12番のりばより
(平日・土曜の始発から12:27発までは14番のりば)
創価大正門東京富士美術館行き／創価大学循環
- 京王八王子駅・西東京バス4番のりばより
創価大正門東京富士美術館行き／創価大学循環

【お車】

- 中央高速八王子インターチェンジ
第2出口より八王子市街方面へ進み国道16号に合流、三つ目の信号を右折(谷野街道入口)、直進し二つ目の信号を右折

7-8c

三彩貼花宝相華文水注
唐(7～8世紀)



11-12c

磁州窯
白地黒描落牡丹文梅瓶
北宋(11～12世紀)



12-13c

磁州窯
白地鉄絵牡丹文梅瓶
金～元(12～13世紀)



14c

景德鎮窯
青花魚藻文酒壺
元(14世紀)



16-17c

景德鎮窯
五彩魚藻文面盆
明・万暦年間(1573～1620)



8c

灰陶加彩鷹匠
唐(8世紀)



17-18c

景德鎮窯
五彩蓮池文方瓶
清・康熙期(17～18世紀)